

大学図書館問題研究会誌

第30号 2007年 8月

目次

海外ILL入門

— 東京学芸大学附属図書館での経験に基づいて — 高橋 隆一郎 …… 1

EzProxyを使ってサイト契約データベースを自宅からアクセスする

国際基督教大学図書館でのEzProxy導入事例報告 黒澤 公人
宮本 智佳子 ……15

大図研特別企画「検索の鉄人に聴く！検索エンジンを使い倒すコツ」

(講演報告) 講演者 関 裕 司
記録 小野 亘 ……21

大学図書館問題研究会愛知支部 第34回(2006)春の大交流会講演録

図書館って丸投げして大丈夫？

— 指定管理者制度の"光"と"陰"を考える — 中 嶋 哲 彦 ……27

海外ILL入門

—東京学芸大学附属図書館での経験に基づいて—

Introduction to International Lending and Document Delivery Services: based on my experience in Tokyo Gakugei University Library

高橋 隆一郎*

抄 録

自図書館の資料のみでなく、他の図書館で収集されている資料を借用したり、コピーを依頼して提供したりすることで利用者の要求に応えるILLサービスは、学術研究が多様化し、情報技術が進化し続けている現在、ますます重要なものになっている。さらに、「グローバル化」がしばしば指摘されるなかで、海外文献の依頼先となる日本以外の図書館との関わりも今後ますます重要になる。本稿では、東京学芸大学附属図書館での経験に基づき、依頼を行う観点から海外ILL業務の概略を記す。概略では、業務の際に拠って立つ考え方や、所蔵図書館を見つける方法、依頼の仕方、到着確認やクレーム・照会の方法、支払いの手段等を述べる。

目 次

1. 東京学芸大学の紹介
 - 1.1 教育・研究組織について
 - 1.2 留学生等
2. 当館海外ILL業務の概略
 - 2.1 拠って立つ考え方
 - 2.2 利用者のニーズを把握する。
 - 2.3 所蔵図書館を探す
 - 2.3.1 英国
 - 2.3.2 アメリカ合衆国
 - 2.3.3 カナダ
 - 2.3.4 オーストラリア
 - 2.3.5 ドイツ
 - 2.3.6 韓国
 - 2.3.7 中国
 - 2.3.8 その他
 - 2.4 依頼する
 - 2.4.1 NACSIS-ILL
 - 2.4.2 相手図書館の依頼用ウェブフォーム
 - 2.4.3 E-mail
 - 2.4.4 IFLA loan/photocopy request form
 - 2.4.5 その他
 - 2.5 複写物の到着確認及び提供
 - 2.6 借りた図書への到着確認及び提供
 - 2.7 借りた図書の返却
 - 2.8 支払い
 - 2.9 補記
3. 結語

自図書館の資料のみでなく、他の図書館で収集されている貴重な資料を借用したり、コピーを依頼して提供したりすることで利用者の要求に応えるILLサービス。このサービスは、学術研究が多様化し、情報技術が進化し続けている現在、ますます重要なものになっている。

さて、読者の皆さんの図書館では利用者の寄せてきた文献ニーズに対して日本の図書館の範囲で応えられない場合にどうしているだろうか。昨今、「グローバル化」がしばしば指摘されているが、海外の図書館との関わりも今後ますます重要になることであろう。

本稿では、東京学芸大学附属図書館(以下「当館」と記す)で筆者が経験している海外からの文献取り寄せ業務に基づいて海外ILLの概略を示す。他の館の方で似たような事例に出会ったときに参考にしていただければ幸いである。今回は海外の図書館からどのように文献を取り寄せるかに焦点を置き、海外の図書館にどう文献を提供するかは別の機会に譲る。

*たがはし りゅういちろう 東京学芸大学附属図書館 平成18年4月23日受領

EzProxyを使ってサイト契約データベースを自宅からアクセスする 国際基督教大学図書館でのEzProxy導入事例報告

Remote access to contract databases by EzProxy : a case at International Christian University Library

黒澤 公人 宮本 智佳子*

抄 録

サイト契約をしているデータベースはサイト契約した機関のIPアドレスをもつパソコンからのアクセスに限定される。そのため、通常は、その機関内に設置されたパソコンからしかアクセスできない。インターネット環境をもつ自宅からアクセスしたいという利用者からの要望に応えるため、本学図書館では、EzProxyというソフトを導入して運用を行っている。その導入方法と運用事例について紹介する。

目 次

1. はじめに
2. EzProxyとは
3. EzProxyサーバーのテスト
4. 本館環境の構築
5. ネットワーク管理部署との調整作業
6. EzProxyのポートの使用方法
7. セキュリティ管理
8. 本学図書館のアクセス例
9. データベースの選定と設定
10. おわりに

○ 1. はじめに ○

大規模オンライン雑誌記事全文データベースの普及にともなって、その利用が活発化している。多くの学生の自宅にもインターネットが利用できる環境が整い、大学の情報をインターネットを通じて確認することができるようになった。

本学図書館で契約しているデータベースの多くはサイト契約であり、業者に登録したIPアドレスをもつ学内に設置されたパソコンで利用ができる。しかし、本学の学生が自宅で利用している商業プロバイダーのインターネットから、サイト契約デ

ータベースをアクセスすることは出来ない。

多くの学生から「自宅からデータベースを利用できないだろうか」という要望が多く寄せられたため、その方法を模索した。2005年9月より、本学図書館では海外でよく使われているEzProxyというソフトを導入し運用している。

EzProxyは、比較的安価で簡単に利用できるもので、この報告がサイト契約データベースを自宅からアクセスすることを検討している図書館の参考になれば幸いである。

○ 2. EzProxyとは ○

EzProxy⁽¹⁾は、サイト契約をしているデータベースを自宅から利用することを目的に、図書館や研究機関向けに開発された専用ソフトである。

通常、学生が自宅でインターネットを利用する場合は、そのパソコンのIPアドレスは、商業プロバイダーが確保しているIPアドレスになる。そのため、そのパソコンからサイト契約しているデータベースにアクセスしようとしても、IPアドレス

*くるさわ きみと 国際基督教大学図書館
みやもと ちかこ 国際基督教大学図書館 受領 平成19年2月11日

大図研特別企画 「検索の鉄人に聴く！検索エンジンを使い倒すコツ」(講演報告) Lecture report: Daitoken Special lecture " Ask Iron Searcher - Tips for full utilize the search engine"

講演者 関 裕 司 記 録 小 野 亘*

抄 録

2005年12月3日、関裕司氏を講師に迎え、大図研特別企画「検索の鉄人に聴く！検索エンジンを使い倒すコツ」が、開かれました(於：機会振興会館)。

関裕司氏は、標題のとおり、初代検索の鉄人(1997年)として有名で、検索やサーチエンジンに関する解説などを多く手がけられています。講演当時はYahoo! Japan社リスティング事業部サーファ一部に在籍されていました。

今回のご講演では、Yahoo!を題材に、検索のノウハウとYahoo!のサービスについてお話をいただきました。以下に、ごく簡単に当日のお話をまとめてみました。

目 次

1. Yahoo!検索の概要/検索結果の見方/タブメニュー/シンプルな検索メニュー
 2. YSTとは/クローラとインデックス/ランキング/カテゴリとの関係
 3. キーワードの考え方/HeadコンテンツとTailコンテンツ/キーワードの組み合わせ/フレーズによる検索/再検索のヒント
 4. 検索オプションの使い方/ドメインの設定/URLによる限定/タイトル内での限定/ファイル形式
 5. DBの使い分け/カテゴリ/マルチメディア/その他/どうしても解決しないことは……
- ※ 当日配布資料

○ 1. Yahoo!検索の概要/検索結果の見方/タブメニュー/シンプルな検索メニュー ○

今日は、一般論としてロボット型の検索エンジンの仕組みというお話をしたいと思います。

Yahoo!Japanでは、去年(2004年)の6月くらいまでは、検索エンジンとしてGoogle社のエンジンを使っていましたが、YST(Yahoo! Search Technology)に変わりました。

また、検索結果のページのデフォルトが、「ダイジェスト」というカテゴリ・登録サイトでしたが、2005年10月から、いわゆるロボット型の検索エンジンであるYSTの検索結果が検索結果のデフォルトページに変わりました。カテゴリに一致した場合は、カテゴリも表示しています。

「関連検索ワード」は、前日の検索ログから関連するワードの集計結果の上位のものです。何か事件があると、ガラッと変わります。

カテゴリに登録されたサイトは、約50万サイトあり、以前はそのメンテナンスがサーファ部のメインの仕事でした。現在では、それに加え、YSTの検索結果の品質管理(チューニング)も、サーファ部の仕事になっています。

画面の一番上の部分、タブメニューはそれぞれのデータベースが、検索語を入れ直さずに検索できます。

裏技のようですが、検索窓になにも入れずに検索を押すと、シンプルなYSTの検索メニューになります。

*せき ゆうじ Yahoo! Japan
*おの わたる 国立情報学研究所 平成19年2月21日受理

大学図書館問題研究会愛知支部 第34回(2006)春の大交流会講演録
図書館って丸投げして大丈夫？
—指定管理者制度の"光"と"陰"を考える—
Private Management of the Public Library :
Deregulation and Privatization Policy and the Right to Learn

中 嶋 哲 彦*

抄 録

国は規制改革・民間開放政策を、地方分権改革と結びつけて強力に押し進めている。国の規制を緩和・撤廃して、地方公共団体等の事務・事業の廃止・縮小や民間委託を進め、国の財政負担を軽減するとともに、営利企業の収益事業の拡大を図ることがその目的である。これは福祉実現を柱に国民統合を図ってきた「この国の在り方」を大きく転換しようとするもので、国民の私費負担の増大や公共サービスの低下と格差拡大は避けがたい。

公共サービスの民間開放の一環として、公立図書館の管理運営に指定管理者制度が導入された。従来公的に管理運営されてきた公立図書館を、地方公共団体の判断により民間事業者に全面的に委託することが可能となった。地方公共団体の理事者からはこれを歓迎する声も聞こえる。しかし、財政負担の軽減を主目的とする指定管理者制度を導入することで、住民の学習権保障という公立図書館本来の役割が損なわれる可能性は否定できない。

目 次

公の施設とその管理
 公共図書館 - 公選制から任命制に
 公務の委託化
 委託する際の条件
 指定管理者制度 - 「管理」の丸投げ
 公権力の民間委託化
 誰も使わなくなった公産
 人事権も指定管理者のもとに
 空文化する住民参加
 継続性が負うい制度
 指定管理者制度登場の背景
 市場化テスト - 公務員首切りの切り札

国立大学法人 - 大学版「行政改革」
 町村合併 - 低下する行政サービス
 公の施設すべてが対象
 上水道 - 命の水まで指定管理者に
 文部科学省の方針転換
 ナショナル・ミニマムの達成からローカル・オプティマムの実現へ
 「地方分権」 - 切り捨てられる住民自治と住民サービス
 図書館間の連携は成り立つか？
 継続性は保障されるか？
 評価する能力をもつことの意味
 真に質の高い住民サービスを

○ 公の施設とその管理 ○

まず、指定管理者制度の基本からお話しましょう。公立図書館というのは、お配りしたレジメ「公立図書館への指定管理者制度の導入：公共サービスの民間開放と社会教育機関の管理運営」の

第1章「公の施設とその管理」の第1節「公の施設とその管理」の冒頭にあるように、地方自治法上は公の施設というものの中に含まれます。「公の施設」というのは、図書館や公民館、劇場、病院などの建物だけを指すのではなく、護岸工事をした河川なども含み、地方自治体が設置する施設のこ

*なかじま てつひこ 名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授・教育行政学 平成19年5月7日受理